

## 「肥後ハマグリ」の資源管理とブランド化」が出版されました

熊本県はハマグリ生産量日本一の県ですが、このことは地元でもあまりよく知られていません。また、漁獲に関する規制がほとんどないため、多くの漁場でハマグリが乱獲されています。

センターでは2005年より「熊本県ハマグリ資源管理研究プロジェクト」(代表:内野前センター長)を立ち上げ、ハマグリ資源管理とブランド化に関する研究を行っていましたが、このほどその成果をまとめ、「肥後ハマグリ資源管理とブランド化」(熊本大学政創研叢書, 成文堂, 2,500円+税)を出版しました。第1, 8章を内野前センター長が、第4~6章を逸見教授が執筆しています。

本書は、ハマグリ資源管理やブランド化だけでなく、生息地である有明海の現状や、ハマグリ生物学的・文化的側面についても扱っており、ハマグリを広く知ることのできるガイド本としても活用できるものです。



- 第1章 有明海の起源と特徴
- 第2章 有明海の変貌と現状
- 第3章 ハマグリ文化誌
- 第4章 ハマグリ生物学
- 第5章 日本各地におけるハマグリ現状
- 第6章 熊本県におけるハマグリ資源管理
- 第7章 肥後ハマグリブランド化
- 第8章 提言 - 肥後ハマグリ資源管理とブランド化に向けて -

## ハマグリ完全養殖を目指して - 二枚貝実用化事業始まる -

二枚貝(ハマグリ・アカガイ・シジミ・サルボウ)の効率的な増養殖を目指すプロジェクト「環境変化に対応した砂泥域二枚貝類の増養殖生産システムの開発」(中核機関・独立行政法人水産総合研究センター, 2009~2011年)がスタートしました。

このプロジェクトは、環境悪化や乱獲によって激減している二枚貝資源量を回復するために、安価で生残率の高い種苗を生産し、同時に良好な漁場を創出して、より高品質な二枚貝を生産することを目的としています。

逸見教授(ハマグリ部門リーダー)は、他機関と協力して、ハマグリ完全養殖(人工授精から出荷サイズまで)に向けた研究を実施します。具体的には、有明海のハマグリ母貝を使って京都府立海洋センターが殻長1mm程度の種苗を生産し、それを逸見教授と水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所が、天草のクルマエビ養殖場跡地や瀬戸内海の塩田跡地を利用して、殻長4~5cmの出荷サイズまで育成します。



実験を行う天草維和島のクルマエビ養殖場跡地

ハマグリは、粘液の放出や高い移動能力など養殖に不向きな習性を持っていますが、新たな飼育方法の開発などによって、これらの問題点を克服したいと考えています。